

繁昌亭鑑賞同好会に参加しました

今期2回目の繁昌亭鑑賞会が10月10日に催行され、17名(箕面拠点の2名も一緒)の参加で楽しみました。元気で意気盛んな若手落語、昔ながらの和傘を使った曲芸、女流漫才、ベテラン桂枝三郎さんの古典落語等10番の出し物で、3時間半たっぷり笑い癒しの時間を皆様と過ごしました。



会員のお二人が枝三郎さんのお弟子さんだったという事で懐かしそうに帰り出口で握手され旧交を温めておられ、改めて落語を身近に感じたものです。鑑賞後は近くにお住まいの岡田多栄子さんに純喫茶に案内してもらい、香り高いコーヒーなどを頂きながら歓談兼、次回相談等をして帰路に着き大満足な一日を過ごしました。(堀 順子)

中国での国際社会高齢福祉・介護事業発展協力フォーラムに参加

去る9月25日から26日まで中国江蘇省で開催された「2013年国際社会高齢福祉・介護事業発展協力フォーラム」に大阪府代表として、府日中友好協会・府社会福祉事業団・府社会福祉協議会の幹部と参加しました。海外からはドイツ、カナダ、ロシアなど7ヵ国と中国の各界の代表が参加して、福祉・介護サービス分野の発展と協力のあり方を討議し、関連する交流についても話し合いをしました。



研究課題は、(1)介護サービス基準と評価、(2)介護サービス産業発展の研究、(3)高齢者地域介護の実行と探索、(4)介護サービスの人材育成と現職教育、

(5)介護事業における政府、社会、家庭、及び個人の責任研究と言う事で、各国の取り組みの発表がありました。日本からは大阪府・石川県・北海道の代表が参加し、代表して大阪府社会福祉事業団の山上常務理事が「大阪府における高齢者施策の現状と社会福祉事業団の人材育成について」、取組み内容の発表をして頂きました。

人口約14億人の中国においても65歳以上の人口が10%を超えています。日本の65歳以上の人口は1994年に14%を超え急速に高齢化が進み、2010年に高齢者人口は2,925万人になり、高齢化率が22.8%まで進んでいます。また大阪府においても、来年は4人に1人が65歳以上となり、さらに認知症を有する一人暮らしの高齢者の増加が予想されます。

今回参加した各国ともに急速な高齢化に伴って、医療・福祉・介護サービスの供給量の増加と、社会保障費の増大が予想されます。日本は今後の取り組みとして、「地域包括ケアシステムの構築」が求められています。住み慣れた自宅や地域で暮らし続けることを希望する高齢者が、介護度が重くなってもできる限り生活の場を変えずに自らが選択した場所で、必要な医療・介護などのサービスを受けながら生活することが求められています。

今回のフォーラムに参加して学んだこと、多くの方と出会い、出来た人のネットワークを今後のナルクの活動に活かして、会員一人ひとりが元気で長生き出来るように「健康寿命」に挑戦します。(清水正弘)